

# 郷土づくり推進会議 地区交流会

この交流会は、市内13地区での活動の情報共有を図り、また、地域住民と市との協働を深めることを目的として、郷土づくり推進会議代表者（明治地区からは三髯議長、猪野副議長と川口明治市民センター長が参加）と理事者が意見交換するもので、今年度は、11月17日（火）にZoomを使ったオンライン会議で行われました。交流会では、藤沢市民病院副院長・神奈川県健康医療局医療危機対策統括官の阿南英明医師の講演とコロナ禍での地域の状況や課題・活動報告が話されました。

その交流会の内容を12月の定例会で委員に報告するとともに録画された講演を視聴しました。

## 感染を予防する4つの行動指針「M・A・S・K」

**M**：マスクを着用する



**A**：アルコール消毒をする





**S**：しゃべり物を挟む



**K**：キヨリ・換気を取る



講演資料より引用

他人への感染は発症前2日から発症後5日目（最大10日）までに起きる  
 感染者の44%は発症前の患者から感染している！  
 無症候者（症状がないけどウイルス感染している患者）が多数いる

ウイルス保有者・他人に感染させる患者を正確に選別することは不可能！  
**前提**  
 職員も患者も入所者も家族も友人も全員がウイルス保有の可能性あり



神奈川県 県のたより4月号から引用  
 阿南英明 医師

## 市政運営の総合的指針2020の改定に関する地区説明会開催

地区郷土づくり推進会議定例会において、藤沢市企画政策部企画政策課から、令和3年度から始まる「藤沢市市政運営の総合指針2024（2040年に向けた持続可能なまちづくりへの転換）」の素案について、説明がありました。

市政運営の総合指針は、「概ね20年先を見据えた基本方針」と「直近4年間に重点的かつ確実に実施すべき施策を位置づけた重点方針」で構成されています。今回は、4年に1度の改定を行うにあたり、意見募集が行われ、明治地区の委員、市民からも多くの意見が提出されました！

### 市政運営の総合指針2024」に基づく市政運営が4月からスタート！

#### 第1章 基本方針 （20年後を見据えた方針）

詳しくは、市のホームページをご覧ください。

#### 第2章 重点方針 （今後4年間の重点取組）

めざす都市像

### 郷土愛あふれる藤沢

～松風に人の和るわし湘南の元気都市～

3つのまちづくりコンセプト **（新規）**

- ▶ 藤沢らしさを未来につなぐ持続可能な元気なまち（サステナブル藤沢）
- ▶ 共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち（インクルーシブ藤沢）
- ▶ 最先端テクノロジーを活用した安全安心で暮らしやすいまち（スマート藤沢）

8つの基本目標

- ・安全な暮らしを守る
- ・自然を守り豊かな環境をつくる
- ・健康で安心な暮らしを支える
- ・都市基盤を充実する
- ・文化・スポーツを盛んにする
- ・子どもたちを守り育てる
- ・地域経済を循環させる
- ・市民自治・地域づくりを進める



取組の考え方

- ・マルチパートナーシップの推進
- ・「藤沢らしさ」を大切に、「藤沢にしかないもの」を生かす（新）
- ・機動的連携

まちづくりテーマ1 安全で安心な暮らしを築く	重点施策1 災害対策の充実（変更）
	重点施策2 防災・交通安全対策の充実
	重点施策3 感染症対策の強化
まちづくりテーマ2 健康で豊かな長寿社会をつくる	重点施策1 地域共生社会の実現に向けた取組の推進（変更）
	重点施策2 健康寿命日本一に向けた健康増進・介護予防等の促進
	重点施策3 コミュニティの活性化による持続可能な地域づくりの推進
まちづくりテーマ3 笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる	重点施策1 子どもたちの笑顔あふれる学校教育の推進
	重点施策2 子どもたちの健やかな成長に向けた支援の充実
	重点施策3 支援を必要とする子ども・若者への支援の充実
まちづくりテーマ4 都市の機能と活力を高める	重点施策1 都市基盤の充実と長寿化対策の推進
	重点施策2 住生活環境の向上と誰もが移動しやすい交通体系の構築（変更）
	重点施策3 地域経済循環を高める経済対策の推進（変更）
まちづくりテーマ5 未来を見据えてみんなではじめよう（新）	重点施策1 豊かな自然を守り生かす環境対策の推進（変更）
	重点施策2 デジタル市役所・スマートシティの推進（新）
	重点施策3 人材育成の推進（新）
	重点施策4 次世代に伝える歴史・文化遺産の推進と多彩な魅力の発信（新）
	重点施策5 市民参加型東京2020大会のレガシー創出（変更）

# 明治地区

# 郷土づくり推進会議NEWS

第11号  
 令和3年3月31日発行



発行：明治地区郷土づくり推進会議 事務局：明治市民センター 電話 34-3444

## 明治地区郷土づくり推進会議との顔合わせ



鈴木市長との顔合わせ(8/11)の様子

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた「令和2年度委員委嘱式及び意見交換」を見合わせ、緊急事態宣言が解除された8月の定例会に鈴木市長等が来館され、郷土づくり推進会議委員と顔合わせの機会が設けられました。鈴木市長からは、市民と市との協働の視点から地域づくりを推進し、地域の特性を生かした地域課題の解決に向け、取組を進める会議体として、行政が地域の実情を知る皆様と一緒に課題を考え、解決し、新たな人材を創出していくとともに、郷土づくり推進会議をはじめとした団体との連携や融合など、新たな市民協働のカタチを模索できればとのあいさつがありました。顔合わせでは、市長自らパワーポイントを使って、新型コロナウイルス感染症の本市での状況や、影響について説明されました。

## タウンニュースから取材を受け記事になりました。

『人と歴史とビルが共にある景観』  
 窪田国子さん、宮澤大則さん、猪野恭子さん  
 三崎清次さん、小池保夫さん

市内13地区の郷土づくり推進会議の協力で、地域の特長や活動を紹介するコーナーです

明治 第2回(全3回)



開発と伝統人が集まるまち

開発の進む辻管駅北エリアを擁し、ビルやマンションが立ち並ぶ子育て世帯中心に市内でも特に移住者の多い地区。明治期の私塾・耕余塾や郎右衛門家の文化財の旧三番八郎右衛門家住宅などの史跡も多い。

明治期に大庭・稲荷・羽鳥・辻堂が合併し明治村に。1908年に他村と合併し、藤沢市の前身となる藤沢町となった。

近年の急激な開発が交通面など地域課題にも大きく影響。より良い暮らしのため、子育て・福祉事業など地域の「一員として地元企業も協力」「明るく楽しい未来を創るまち、めいじ」をまちづくりのテーマに掲げる。

令和2年度から、市内各地区郷土づくり推進会議に取材が行われることになりました。明治地区は、11月企画会(11/4)に記者が来庁され、11月20日号に左記のとおり明治第2回として掲載されました。

取材では、各々の部会活動報告をしましたが、掲載紙面の関係で全体的な内容としてまとまっています。

各々の事業については、別に取材があり、例えば、「あなたの人生会議」に参加したことや、旧三髯家住宅を360度VR画像化したことなど郷土づくり推進会議事業を含む、明治地区に関わる内容が掲載されています。今後も気に留めて見ていただきたいと思います。



# 部会報告

## 安全安心部会

安全安心部会では、郷土づくり推進会議の委員や地区内の住民から寄せられた地区内の危険箇所の情報を基に現地調査を行い、危険箇所の把握や改善策の検討をしています。必要に応じ市などの担当部署へ要望し、改善に向け一緒に活動を行っています。

また、「明治地区マナーアップキャンペーン」と題し、毎月、市民センター前にのぼり旗を掲出し、住民同士、お互いを思いやり、マナーを守って生活していく環境づくりの啓発を行っています。これからも、自らが他の住民への思いやりを持ち、住民相互のコミュニケーションを図るとともに、一人ひとりがマナーを守り、清潔で気持ち良く、交通事故・犯罪のない住みよい街にしていきましょう。



## 健康生きがい部会

藤沢市が主催する「第2回あなたの人生会議」が令和2年11月29日(日)に明治市民センター健康プラザで開催されました。「あなたの人生会議」の内容としては人生の最後をどのように迎えるかを考えるだけでなく、これからの人生をより充実させるきっかけづくりを目的に「健康・医療」、「地域デビュー」、「ICTの活用」、「終活」の4つのテーマに分けてブース展示が実施され、地域団体や地元の企業、施設の全21団体が参加されました。



明治地区での開催であることから、明治地区ボランティアセンターむすびで、地域支えあいセンターからも、認知症見守りチャレンジ実行委員会も参加し、地元主体の親近感のあるイベントとなり、盛況裏に終了いたしました。



明治地区郷土づくり推進会議は後援として協力し、また当日健康生きがい部会は「健康・医療」ブースに出展して、明治地区公園体操のチラシの配布と公園体操マップを展示パネルに掲示し、来場者に周知を行いました。

当日は新型コロナウイルス感染防止のため、健康プラザ入口に手洗い場が設置され、参加団体の藤沢市薬剤師会による手洗い指導のあと、検温、健康状態の聞き取りを行うなどの感染防止策が施され、鈴木市長、副市長はじめ約200名が来場しました。



## 子ども子育て部会

新型コロナウイルス感染症の第3波を受け、緊急事態宣言が発出中の講演会となりました。当初は、明治健康プラザ(体育室)を会場に、より多くの方々や要配慮者(手話通訳等の設置)にも対応した大規模な講演会を予定しておりましたが、講師の佐藤先生の自宅である宮城県石巻市からオンライン配信のみの実施となりました。

この講演会の開催には、3年の月日を費やし、子ども子育て部会がコーディネーターとなり、教育講演会委員とともに実行委員会形式で行いました。3.11に起こった震災を契機に、未来へ向けて命の意味を考えてもらおうと実現したものです。

佐藤先生と明治市民センターとをZoomで結び、オンライン参加者には、YouTubeによる限定配信を行いました。

※会場には、配信準備のため実行委員のみ参加しました。



「悲しみは涙にも、強さにも、やさしさにも、しなやかさにも、時には笑顔にも、何にでもなれるんです・・・」と、優しく語りかけてくる。2月21日(日)明治市民センターホールのスクリーンに映し出されているのは、10年前の東日本大震災で娘さんを亡くされ、悲しみの淵を彷徨ったであろう特別講師、佐藤敏郎さんだ。

今回の講演会はコロナ禍のため残念ながらご自宅からのリモートでの開催となった。この日佐藤さんが何度も口にしたのは『防災』という言葉。この言葉に佐藤さんが込めた意味は、それは『防災とは『ただいま』を必ず言うこと』そして、『黙っていればただの嫌なこと。しかし、語ってれば情報になる。防災とは、あの日を語ることでもあるんです。』と、説明された。多くの知識を集結し、マニュアルを作っても防げなかった災害。そこには何があったのか。佐藤さんはシンプルにこんな風にまとめてくれた。

その「ただいま」の言葉を言うために、あの日を語る「防災」の活動の輪が今、広がっている。当時、友を亡くしたり、親を亡くした子どもたちが、悲しみと向き合い千年後の命を守るため、石碑の建立を始めた。このように、多くの人が手を携えて一つの光に向かっていけば、その光の向こうには「お帰りなさい」と優しく微笑んでくれる人たちのためにも、未来の命のためにも・・・「ただいまを必ず言う」そう、この言葉こそが大切な命の意味を考えさせてくれることになる。私は、この講演を聞いてそう胸に刻み込んだ。(F.T)

オンライン申込人数：116人、視聴回数：615回、アンケート回答件数：81件 意見感想(抜粋)

- 娘さんを津波で亡くされるという辛い体験をされたことを、遺族と教師という二つの立場からお話くださった佐藤先生に感謝いたします。先生の言葉は一つ一つとても説得力があり、どの言葉も心に残っています。
- 災害の怖さ、防災の大切さ、未来のためにすべきことを伝えられており、大変勉強になった。
- 万が一、念のための日々の行動がいかに大切で命を守るために重要であるかが、痛いほど伝わってきた。
- 休日でオンラインだったため、家族も視聴することができ、終わってからも感想を話し合ったり、防災について一緒に考える機会を持てたので、とても良かった。
- 参加者からの質問を受けられるのもっといいと思う。



## 歴史文化部会



歴史文化部会では、明治地区に残された歴史・文化遺産を後世に伝える活動を行っています。令和2年度につきましては、昨年度からの継続事業として、耕餘塾を開いた郷土の偉人、小笠原東陽先生が残した書物や書簡などの調査を実施し、報告書としてまとめる予定でした。しかし、コロナ禍により調査が進まず、およそ30点を調査した時点で作業が止まっている状況です。そのため、令和3年度も引き続き調査を継続し、できるだけ早い時期に報告書としてまとめたいと考えています。

また、耕餘塾ゆかりの国登録有形文化財「旧三鶯八郎右衛門家住宅」が、宅地開発で解体される見通しのため、現在の姿を後世に残すことを目的に、湘南工科大学の協力をいただきVR(仮想現実)映像を作成いたしました。今後、明治市民センター内の明治郷土史料室で公開していく予定です。

